

# '84県政を振り返って。

# 東京大阪風通信

- 8月31日 テクノポリスの中核となる電子応用機械技術研究所起工。
- 9月5日 「くまもと・明日へのシナリオ」を発表。今後の県政推進の努力目標となるもので、活力・個性・潤いの三つを基調にしている。
- 27日 「くまもと日本一づくり運動」の推進本部を設置し、本格的に始動する。
- 10月4日 中曽根首相来熊。



- 11日 人工分割の受精卵移植によるコピー牛生産実験開始。12月8日に受胎が確認された。
- 15日 ニューメディア・コミュニティ構想のモデル地域に熊本市が指定される。
- 25日 豊野少年自然の家オープン。県立では菊池に次ぎ二番目。
- 31日 くまもと'84生活と情報化展開催。(～11月4日)
- 11月10日 くまもと'84農林水産博開催。(～11月12日)
- 17日 高森線が第三セクターにより存続することが決定。



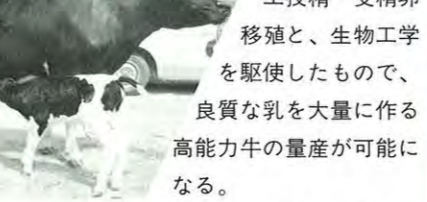
- 6月4日 県行政改革審議会の第二次行革報告書答申。県職員7%削減や政策調整会議設置などを提案。
- 25日 からし蓮根食中毒事件発生。14都府県にわたって36人の患者を出し、内11人が死亡する大惨事となった。
- 29日 五木災害。



- 30日 県環境美化審議会が緑の十年計画の基本計画案答申。
- 7月21日 大型観光キャンペーン開幕。
- 8月25日 ロス五輪金メダルの山下泰裕選手に県民栄誉賞授与。



- 1月18日 熊本市で39年ぶりの積雪。
- 2月21日 九電茶北火力発電所建設計画に伴う公有水面埋め立ての建設大臣認可(4月25日着工)。
- 3月24日 テクノポリス開発計画承認される。激しい競争の中、第一次指定を受けた。
- 4月18日 荒尾市で、バイオ乳牛九州第一号が誕生。人工授精・受精卵移植と、生物工学を駆使したもので、良質な乳を大量に作る高能力牛の量産が可能になる。



- 20日 青年会議所主催による熊本行革フォーラム開催。第二臨調の土光敏夫会長、牛尾治朗専門委員など参加。



- 23日 Uターンアドバイザー業務開始。(東京、大阪の県事務所) 川辺川ダム訴訟和解。
- 5月8日 県工業試験場の電子機械分館落成式。
- 6月1日 「くまもと高齢者社会参加計画」が策定され、高齢者能力活用奨励金給付制度スタート。テクノポリス財団事務所オープン



盛会だった 東京熊本県人会。

東京熊本県人会が東京在住の県出身者四百五十人を集めて十一月五日、農林年金会館で開かれた。熊本弁大会や山鹿灯籠おどりなど久しぶりにふるさとへの香りにふれ、会場は熊本の話でもちきり。帰りには、出席者全員に、荒尾のジャンボナシや県の観光カレンダーなどが配られた。

## 東京だより

### 企業誘致・県人会。中央でも着実な足固め。

業九十二社、百十四名が詰めかけ、各企業の意欲が感じられた。

農林水産博賑わう。十一月二十四日から三日間、東京、晴海の見本市会場で第二十二回農林水産祭が開催された。会場には、全国から郷土色豊かな農林水産物が出品され、終日賑わった。

細川知事の本県の特性や、企業誘致に関する説明に続き、既に本県へ進出しているフアナック株式会社の稲葉社長と本田技研の古山熊本製作所長から事例説明があり、本県への企業進出を大いに訴えた。(東京事務所)



皇太子御夫妻と八浪東京事務所長

最終日には、皇太子御夫妻が会場を訪れになり、本県コーナーでは、特産の天草ウニなどについて熱心に御質問されていた。

企業誘致のための工業立地説明会開催。十一月二十六日、ホテルニューオータニで、県工業立地説明会が開かれた。会場には、都内の先端技術産業の企業九十二社、百十四名が詰めかけ、各企業の意欲が感じられた。



くまもと二十一世紀懇話会開催。十一月二十二日、昨年度第二回目的懇話会が、内田健三氏ら六名の委員出席の

も、大阪のロイヤルホテルで開かれた。今回のテーマは「地域の国際化」。席上、ゲストとして出席した矢野暢京大教授が基調演説を行い、「県が基本方針をつくり、どういう県民性を造っていくべきか」というビジョンを持つ必要性がある」と強調。各委員からも、「半導体を中心とした博物館を造っては」などの様々な提言が寄せられ、熱のこもった話し合いとなった。

## 大阪だより

### くまもとブランドが、関西市場にゾクゾク進出。

年末から年始にかけて、大阪市場入荷量の約半分を占める県産トマトは、大阪市民の食卓に欠かせないものとなっている。

十一月二十二日から二十五日まで、京都市勧業館で「全国産地ブランドフェア・イン・京都」が開催された。県からは、い業協同組合、くまもと名産会、もちあめ朝鮮協同組合、醸造酢ソリス協同組合、球磨焼酎酒造組合がそれぞれ自慢の品を出展。なかでもい草コーナーでの織機実演は、人垣ができるほどの人気だった。(大阪事務所)

## 健康メモ

### 悪酔いしないために!!

お正月を迎え、酒を飲む機会が多かったことと思います。酒はストレス解消に役立ち、百薬の長ともいわれていますが、飲み方によっては、悪酔い、二日酔いといった苦い経験を味わうこととなります。

身体の中からアルコールが抜けていく量は、その人の体質、体重、酒の種類によって異なりますが、体重50kg、普通に飲酒をする人では、一時間で日本酒23cc(天さめの盃一杯)とされています。一合の日本酒のアルコールが完全に抜けてしまうのに約八時間かかる計算です。

こうして、体内にアルコールがたまる、アルコールが水と尿酸ガスに分解する途中でできるアセトアルデヒドも蓄積されていきます。悪酔いの原因といわれるのがこのアセトアルデヒドです。飲んで四、五時間後に濃度がピークに達します。この頃に頭痛、吐き気といった症状も出てきます。悪酔いを防ぐ第一の方法は節酒です。平均人で清酒一合、またはビール一本程度までは悪酔いは起こりません。そのほか、ちよとした心ばり、効果的な方法もあります。

飲んだ時、背すじを伸ばし、深く呼吸をして、呼吸にまじって出るアルコールをより多量に出すようにします。また、蜂蜜や果糖やビタミン類の多いものを食べることも有効です。ビタミン不足は悪酔いの原因になりやすいし、糖分の補給はアルコールの作用で生じる低血糖現象に伴う不快感を緩和させるからです。よく、「柿を食べると酔いが醒める」というのも、柿の果糖が飲酒による低血糖現象を防ぐからです。

(健康センター副所長・本郷尚史)

